様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ２ 日現在

機関番号：３４４１８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７００７４

研究課題名（和文）Themes and Implications of the Heisei Era Shikoku Henro Literature Boom

研究課題名（英文）Themes and Implications of the Heisei Era Shikoku Henro Literature Boom

研究代表者
Ｊｏｈｎ　Ａ．ＳＨＵＬＴＺ（SHULTZ, John A.）

関西外国語大学・外国語学部・講師

研究者番号：９０７２２７２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：全体を通して、プロジェクトはスケジュール通り順調に進み、複数の独創的な分析に使用可能な、高品質のデータが作成された。この結果は、直接的な四国遍路の研究と、世界的な巡礼研究の分野の両方にとって重要である。前者に関する最大の成果はおそらく、巡礼という文脈の中で禁欲主義（修行、苦行など）を記述する際に用いられる数々の用語の分析である。 後者に関しては、進化する巡礼システムにおける外れ値(outliers)の役割を明らかにし、従来の巡礼の理論的特徴付けに挑戦してきた。

研究成果の概要（英文）：In general, the project proceeded smoothly, on schedule, and produced high-quality data from which some original analysis could be made. The results have significance both for research directly into the Shikoku henro and for the global field of pilgrimage studies. With regard to the former, perhaps the greatest achievement was an analysis of the array of terminology used to describe asceticism (修行、苦行、etc.) in the context of the pilgrimage. With regard to the latter, the work has exposed the role of outliers in an evolving pilgrimage system and has challenged previous theoretical characterizations of the pilgrimage.

研究分野：Religious Studies

キーワード：Shikoku henro　pilgrimage　pilgrims　asceticism

１．研究開始当初の背景

旅行や巡礼に関する書物は、古来より日本の文学界における最も重要なジャンルの１つであり、私たちに社会的な視点と宗教的な志向への重要な理解をもたらすものである。日本の歴史上どの時期においても、巡礼文学が今日と同じ力強さで読者を魅了し続けていることに疑いの余地は無い。平成以降、日本で最も有名な精神的旅・四国遍路に関わる出版ブームが起こっている。今や遍路は、世界で最も文学作品化された巡礼である可能性が高い。にもかかわらず、このブームの奥深さは、学問レベルではほとんど無視されてきた。私の博士号研究は、このブーム以降に出版された 16 冊の遍路日記を考察したものであり、科研費の過去 3 年間のご支援によって、研究は急速に発展した。私と研究助手は、四国 88 カ所に関する 148 冊の日記を入手し、考究した。これらの本は、少なくとも 200,000km の巡礼旅行を記録し、多様な背景や宗教的方向から、男性、女性、さらには子供の経験を記述している。

２．研究の目的

この研究では、主に遍路日記の記述に焦点を当て、文章に内在する最も重要なテーマと、そのテーマが示唆する含意を考察している。この豊富な文学的資料は、四国遍路独特の進化版巡礼体系を明らかにするだけでなく、社会学的に見ても広い有用性を持つものである。観察対象の過度な限定化や、歴史的な話題に偏りがちな遍路研究の分野は、遍路記の出版ブームによって活気付くだろう。聞き取り調査では、特定の場所・時間における巡礼者の考えが記録できるのに対して、日記は巡礼経験の全体的な印象を理解するのに有効な切り口である。従ってこの研究は、遍路研究を旅の「全体像」へ戻すことを促す役割を果たす。また、研究データは世界的な巡礼研究の分野に多くの理論的考察を提供するだろう。巡礼は日本宗教の主たる要素であり、日本には巡礼者の数が非常に多いにもかかわらず、これらの事実は学術的な理論にほとんど貢献してこなかった。遍路日記に関するこの研究は、巡礼の定義や巡礼研究のための本質的な方法論的考察といった、基本的な論点を支える。更に、世俗化が進む状況の中で、現代の日本人が宗教や霊性とどのように関わっているかという事について、非常に多くの洞察を与える。リストラ、引きこもり、不安、うつ等、多くの問題に直面する現代日本人の、宗教的実践の顕著な例を取り上げる。現代の遍路人が、旅の中心的聖人である弘法大師とどのような繋がりを持つか、といったシンプルな論点こそ、現代日本の宗教研究を本質へ近づける。要約すると、この研究は、遍路研究、世界的な巡礼研究、そして現代日本の宗教研究の分野に大きく寄与するものである。

３．研究の方法

研究方法として、情報収集は典型的な方法で行ったが、分析には独自の様式を採用した。研究の初期段階では、発行部数の少ないもの、絶版になったものも含めて、平成以降に出版された現存する全ての遍路日記を入手することに尽力した。興味深いことに、ある著者が別の本の著者について言及する場面が多々あり、時には著者間の影響に連続性が見られることが分かっている。第二段階では、研究全体を通して参照するデータベースを作成した。主な調査項目は、著者の基本的な情報、巡礼方法（徒歩、野宿 etc.）、そしてマーケティングポイント（帯の宣伝文）である。第三段階では、重要度の高い 30 冊を精読・分析した。ここでは特に、著者にとっての旅の意味、旅の動機、巡礼のクライマックス、そして著者の宗教に対する基本姿勢に注目した。加えて助成 1 年目と 2 年目には、著者が遭遇し

た経験や状況をよりよく理解するために、四国で実地調査を行った。

多くの社会科学的研究は、学術的議論を形作るため、平均的・典型的なデータに焦点を当てる。しかしこの研究では、Taleb（2007）の例に従って、データの外れ値（統計において他の値から大きく外れた値）を集中的に調査している。例えば、托鉢や野宿遍路は一般的な巡礼者の中では稀だが、遍路ブーム世代の日記には散見される。外れ値に集中するこの研究方法は、進化し続ける社会システムを説明する際に、大きな利点となる。

４．研究成果

この研究における重要な成果の１つ目は、巡礼研究と社会科学の研究方法に対する議論であった。これは、“Black Swans in White Clothing: Outliers and Social Scientific Theory Considered Through a Case Study of the Shikoku Henro (白い服のブラック・スワン：四国遍路の事例から見る、外れ値と社会科学的理論)”という査読済みの論文内で公開された。内容を簡潔に述べると、この論文では平成遍路文学に登場する最も極端な遍路が、実は一般的な遍路よりも特定の事象の重要な側面を明らかによく説明していると主張している。遍路日記は珍しい話に偏っていて、これが日記を出版や販売向きの、魅力的で売れる商品にしている。後続の著者は先発の巡礼作家の特異な記述にインスパイアされる。このメディアの力によって、個人間の影響は急速に増大する。同様にこの外れ値は、四国の巡礼者がどのように旅を実行・解釈するかについて、かなりの自由を有することを示している。この論文は、Smyers（1998）の主張した、日本における巡礼は、集団主義志向の社会に存在する、個人主義的表現のメカニズムであるかもしれないという議論を支持している。

この研究は、遍路日記のテーマの１つである「禁欲主義」を調査することによって、日本の宗教学に大きく貢献した。日本の多くの宗教的文脈の中で、禁欲主義に関する用語が見られるが、単語の概念が実際に意味するものは、驚くほど多様で複雑だ。真野（1991; 1993）、Blacker（1999）、Lobetti（2013 年）といった日本宗教学者が、日本の禁欲主義に関する論文を発表している。私はこれらを「The Way to Gyō: Priestly Asceticism on the Shikoku Henro (行への道：四国遍路の僧侶の禁欲主義)」という論文の中で、遍路集団の中の外れ値に当たる仏僧の日記から禁欲主義に関する記述を取り上げる方法で検証した。私は真野の主張に概ね賛成であり、Blacker と Lobetti の主張には反対である。私は遍路日記の中から、約 12 の禁欲主義に関する用語を慎重に検討し、禁欲主義は互いに言語哲学や認知言語学でいうところの「家族的類似」を示す現象として理解するのが最適だと考える。従って、禁欲主義が単一の定義で適切に説明されるという見解には同意出来ない。一流学術誌に掲載されたこの論文には、学問的な影響を及ぼす確かなポテンシャルがあると確信している。

最後に、この研究の結果は、現在複数の出版社が検討予定のモノグラフにまとめられる。この本は過去に出版された資料を多く掲載しているが、一部新しい内容も含まれる。本文の導入部では、巡礼研究の分野における学術理論の適切な位置づけのためのオリジナルの議論が展開される。この独自の論説が、国内外の議論を盛り上げることを希望している。第 1 章では平成時代の遍路文学の概要を紹介し、その後の章では特定のテーマに関する巡礼者の記述を考察し

ている。第 2 章では禁欲主義、第 3 章は癒し、第 4 章は作家のインスピレーション源として見る遍路、第 5 章は自己 PR・宣伝としての遍路を取り扱う。結論として、私はより広い分野の巡礼研究のため、遍路文学が持つ最も重要な教訓を解明し、現代日本における宗教の意味に関して解説を提供するために最善を尽くしている。

科研費の交付申請書に示されている通り、この本の出版によって、このプロジェクトは主要目的を達成するだろう。この研究が日本学術振興会の助成金を通じて受けた寛大なサポートに値することを願っている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　３　件）

SHULTZ, John A. "Black Swans in White Clothing: Outliers and Social Scientific Theory Considered Through a Case Study of the Shikoku Henro" *Journal of Inquiry and Research* (Kansai Gaidai University) 査読有　Vol. 100 (2014) pp. 153-165. http://id.nii.ac.jp/1443/00006046/

SHULTZ, John A. "Review: Ascetic Practices in Japanese Religion by Tullio Federico Lobetti," *Religious Studies Review* (Routeledge) 査読無し Vol. 38(2015)pp.127-128. http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/rsr.12241_6/abstract

SHULTZ, John A. "The Way to Gyō: Priestly Asceticism on the Shikoku Henro." *The Journal of Japanese Religious Studies* (Nanzan Institute for Religion and Culture) 査読有 Vol 43/2 pp.275-305. https://nirc.nanzan-u.ac.jp/nfile/4528

〔学会発表〕（計　３　件）

SHULTZ, John A. "Felt Religion: Japanese Buddhism and the Medium of the Mascot." 8/28/14.European Association of Japanese Studies, Bi-annual Conference. Ljubljana, Slovenia.

SHULTZ, John A. "Gyōing-Somewhere: Pilgrimage Ascetic Practice to Finance Human Capital." 8/23-8/29 2015. XXI. World Congress of the International Association for the History of Religion. Erfurt, Germany.

SHULTZ, John A. "平成時代の遍路体験記と巡礼研究論."7/30/2017. **愛媛大学** 法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター第 3 回公開研究会. 松山市、日本。

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者

SHULTZ, John A.（PhD）
関西外国語大学・外国語学部・講師
研究者番号：90722728

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：